

8. 11. 自然との触れ合いの場

8. 11. 自然との触れ合いの場

8. 11. 1. 現況調査

(1) 調査内容

調査内容は、表 8. 11-1に示すとおりとした。

表 8. 11-1 調査内容（自然との触れ合いの場）

調査内容	
自然との触れ合いの場	1. 触れ合いの場の分布 2. 利用状況 3. 触れ合いの場の特性

(2) 調査方法

ア 既存文献調査

調査方法は、表 8. 11-2に示すとおりとした。

表 8. 11-2 調査方法（自然との触れ合いの場：既存資料調査）

調査内容	調査方法
1. 触れ合いの場の分布	自然との触れ合いの場の位置及び利用状況は、既存文献等により調査地域内で抽出して把握するものとした。

イ 現地調査

調査方法は、表 8. 11-3に示すとおりとした。

表 8. 11-3 調査方法（自然との触れ合いの場：現地調査）

調査内容	調査方法
1. 触れ合いの場の分布	概況調査の結果に基づき現地確認及びヒアリング※1を実施し、学校行事や地域でのイベントなど実際の自然との触れ合いの場としての利用範囲を把握するものとした。
2. 利用状況	現地確認及びヒアリング※1により利用者数、利用者の属性、利用内容、利用範囲または場所、利用の多い場所等を把握するものとした。
3. 触れ合いの場の特性	地形・地質、植物、動物等の調査結果及び現地踏査により触れ合い活動に利用されている場の構成要素の内容、特性を把握するものとした。

※1：ヒアリング先は、根白石小学校、根白石中学校、寺岡小学校、寺岡中学校、実沢小学校、根白石市民センターとした。

(3) 調査地域及び調査地点

ア 既存文献調査

調査地域は、「6. 地域の概況」における調査範囲（図 6-1 参照）と同様とした。

イ 現地調査

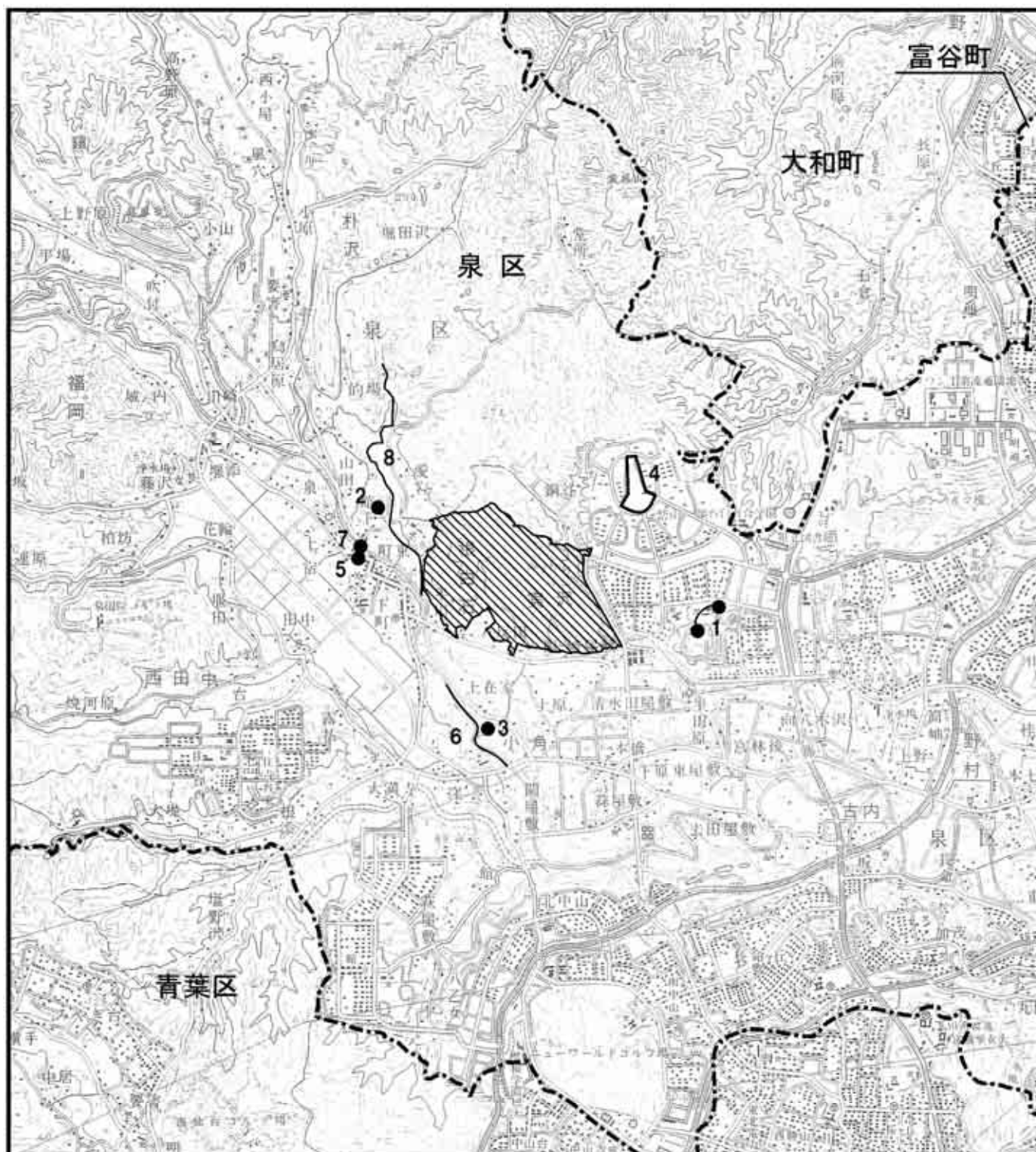
調査地域及び調査地点は，表 8.11-4及び表 8.11-5に示すとおりとした。

表 8.11-4 調査地域（自然との触れ合いの場：現地調査）




調査内容	調査地域
1. 触れ合いの場の分布	対象事業計画地及びその周辺において，触れ合いの場に対する影響が想定される 1km の範囲とした。
2. 利用状況	調査範囲の中で触れ合いの場に対する影響が想定される，表 8.11-5及び図 8.11-1に示す 8 地点とした。
3. 触れ合いの場の特性	対象事業計画地及びその周辺において，触れ合いの場に対する影響が想定される 1km の範囲とした。

表 8.11-5 調査地点（自然との触れ合いの場：現地調査）

地点番号	調査地点	対象事業計画地からの距離
1	寺岡山と寺岡中央公園	約 600～800m
2	白石城跡	約 450m
3	貴船神社	約 600m
4	紫山公園	約 500～700m
5	満興寺	約 600m
6	七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）	約 500～600m
7	七北田川（馬橋付近）	約 600m
8	山田川	隣接地



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区境界線
-  : 自然との触れ合いの場調査地点(図中番号: 1~8)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 8.11-1
自然との触れ合いの場
調査地点(現地調査)

(4) 調査期間

ア 既存文献調査

調査期間は、限定しないものとした。

イ 現地調査

調査期間は表 8.11-6に示すとおり、春季～冬季の4季とした。なお、調査時間は利用者が多く集まる休日の昼間の時間帯7:00～17:00を基本とし、2時間ごとに調査を実施した。

表 8.11-6 調査期間（自然との触れ合いの場：現地調査）

地点番号	調査地点	調査期間
1	寺岡山と寺岡中央公園	春季：平成26年5月3日（土・祝）7:00～17:00 夏季：平成26年8月17日（日）7:00～17:00 秋季：平成25年11月3日（月・祝）7:00～17:00 冬季：平成26年2月2日（日）7:00～17:00 ^{※1} 平成27年2月8日（日）7:00～17:00 ^{※2}
2	白石城跡	
3	貴船神社	
4	紫山公園	
5	満興寺	
6	七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）	
7	七北田川（馬橋付近）	
8	山田川	

※1：地点番号1, 2, 3, 4の4地点を実施

※2：地点番号5, 6, 7, 8の4地点を実施

(5) 調査結果

ア 既存文献調査

① 触れ合いの場の分布

対象事業計画地周辺における触れ合いの場の分布は、「6 地域の概況 6.1 自然的状況 6.1.5 景観等」に示すとおりである。

イ 現地調査

① 触れ合いの場の分布

a) 現地確認

既存文献調査により抽出された自然との触れ合いの場のうち、本事業による影響を考慮した対象事業計画地より 1km の範囲に存在する「寺岡山と寺岡中央公園」、「白石城跡」、「貴船神社」、「紫山公園」、「満興寺」、「七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）」、「七北田川（馬橋付近）」及び「山田川」を調査地点とし、現地確認を行った。現地確認結果は、「② 利用状況」に示すとおりである。

b) ヒアリング

ヒアリングは根白石小学校、根白石中学校、寺岡小学校、寺岡中学校、実沢小学校及び根白石市民センターの計 6 施設に実施した。ヒアリング結果は、表 8.11-7 に示すとおりである。また、根白石地区における地域行事は、表 8.11-8 に示すとおりである。

表 8.11-7 ヒアリング結果（自然との触れ合いの場：触れ合いの場の分布）

活動項目	主な場所等	活動内容
自然と触れ合う活動の場	寺岡地区（寺岡山）	寺岡小学校では授業の一環として、寺岡山の散策、樹名板の設置、冬場のそりすべり、鳥のエサ台や巣箱の設置、たき火、腐葉土を用いたカブトムシが生息する場づくりなど寺岡山を利用した多様な活動を行っている。 課外活動としても、“寺山探検”と称し寺岡小学校の児童・寺岡中学校の生徒合同での動植物の観察、寺岡山で採取した枯れ葉や蔦での装飾品作り等を行っている。
	実沢地区、小角地区	実沢小学校では授業の一環として、周辺の田んぼ等において植物や昆虫の観察を行っている。
	七北田川	根白石小学校では授業の一環として、仙台市科学館の職員とタイアップする等、簡易的な水生生物（指標生物）や簡易的な水質検査を実施している。 根白石中学校の課外活動として、水生動物調査を総合学習の一環として、夏休みに鼻毛橋付近で実施している。 根白石市民センターによれば、地域活動として、町内会、子供会育成会、事業所、学校等が参加する「七北田川クリーン運動」（まちづくり推進協議会）が馬橋上流や広瀬橋付近で実施されている。
生活・文化との関りの深い場	根白石地区	根白石小学校では“まち探検”と称して町の歴史・文化を歩いて調べる授業や、根白石中学校では生徒が地元商店会と協力して「お散歩手帖」という小冊子を作成する活動がなされている。この冊子には根白石地区の歴史、文化等の概況も記されており、このような冊子の作成を通じて生徒が地区の歴史・文化と触れ合っている。 また、根白石小学校及び根白石市民センターによれば、周辺の各神社（白石城址等）で子供会主催のお祭りが実施されている。
地域活動	寺岡地区	寺岡中学校では毎年 11 月中旬の日曜日に、生徒、職員および保護者等で“パークタウンのきれいな街づくり”と称して、清掃活動を行っている。枯れ葉やごみを収集し、一部は家庭菜園にも利用している。地域連携の活動として数年実施している。

表 8.11-8 根白石地区における地域行事

イベント名・講座名	時期・期日	主催者	実施場所・参加者数
かむりまつり	7月下旬	商店会	JA 広場 歌謡ショー，出店，抽選会等 500 人
根白石 民俗ミニ七夕まつり ※30 年ほど前，鉢植え七夕として復活	8 月上旬	地域各老人会	高長付近のメインストリート スタンプラリー，太鼓演奏等 ※100 人以上の七夕が飾られる 1,000 人
夏まつり	8 月中旬	子供会育成会	満興寺 300 人
冠のふるさと伝承まつり	10 月中旬	伝承まつり実行委員会	市民センター ・根白石中学校：しの笛，鹿踊 ・実沢小学校：大正踊り ・根白石小学校：アセ踊り ・福岡小学校：鹿踊，剣舞 300 人
かむりの里 凧揚げフェスタ	12 月上旬	フェスタ実行委員会	根白石小学校校庭，市民センター， 農協跡地等 350 人
根白石の正月行事 (松飾り・だんごさしづくり)	12 月 ～1 月	市民センター，児童館， 社会学級	市民センター
根白石ガイドボランティア 養成講座	9 月 ～10 月	市民センター	市民センター，史跡等
根白石クリスマスイルミネーション	12 月上旬 ～下旬	商店会	商店会会員 スタンプラリー

※根白石市民センターへのヒアリングによる。

② 利用状況

a) 寺岡山と寺岡中央公園

寺岡山と寺岡中央公園における主な施設の状況は、写真8.11-1(1)～(2)及び図 8.11-2に示すとおりである。

寺岡山は、泉パークタウン寺岡地区にある、豊かな緑に包まれた小高い丘陵である。頂上には「とんがりタワー」と親しみを込めて呼ばれている洋風の給水塔があり、この地区のシンボルとなっている。そのふもとにある寺岡中央公園は、寺岡山をバックに自然の中でのびのびとテニスや遊具を楽しむことができ、スポーツ競技・練習の場、憩いの場及び遊びの場として幅広く利用されている。また、付近には寺岡小学校および寺岡中学校がある。



① バスケットコート



② 水飲み場



③ あずまや



④ トイレ



⑤ テニスコート



⑥ 水飲み場

写真 8.11-1(1) 主な施設の状況（寺岡山と寺岡中央公園）（平成26年8月24日撮影）（1/2）



⑦ 遊具



⑧ ため池

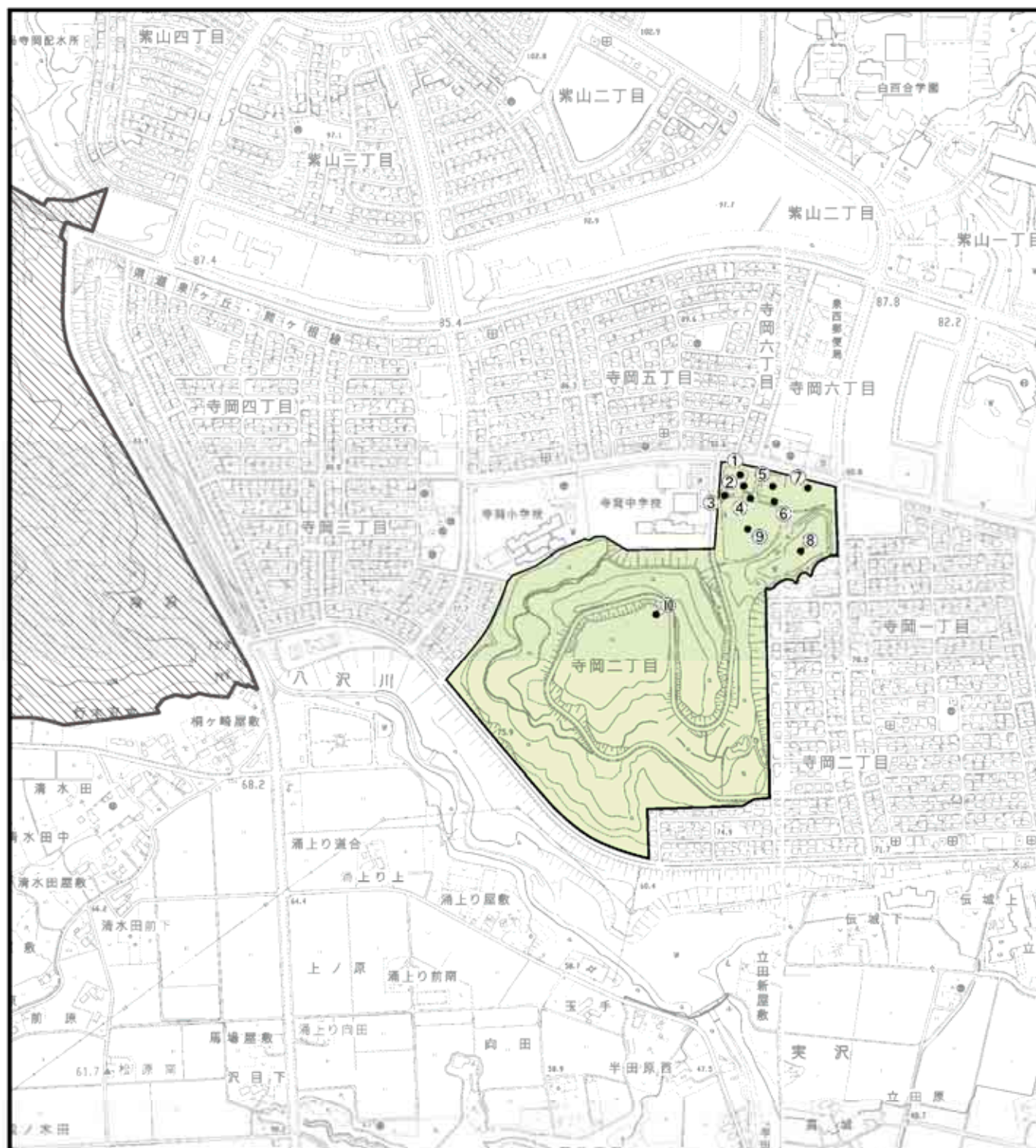


⑨ 野球場



⑩ 寺岡高架水槽（とんがりタワー）

写真 8.11-1(2) 主な施設の状況（寺岡山と寺岡中央公園）（平成26年8月24日撮影）（2/2）



凡 例



：対象事業計画地



：調査地点（寺岡山と寺岡中央公園）

・

：主な施設

① バスケットコート

② 水飲み場

③ あずまや

④ トイレ

⑤ テニスコート

⑥ 水飲み場

⑦ 遊具

⑧ ため池

⑨ 野球場

⑩ 寺岡高架水槽（とんがりタワー）



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-2
主な施設の分布状況
(寺岡山と寺岡中央公園)

現地調査時における利用者数は、表 8.11-9に示すとおりである。利用者は大人が約 7 割を占めた。調査日における利用人数は、少年野球の開催日であった夏季が 552 名と最も多く、春季が 255 名、秋季が 138 名、冬季が 201 名であった。利用者の主な交通手段は、徒歩、自転車及び自動車であり、夏季に開催されていた少年野球時は隣接する寺岡中学校の駐車場へ駐車して来園する状況が確認された。

寺岡山と寺岡中央公園の利用状況は、表 8.11-10に示すとおりである。利用内容は、公園内施設であるテニスコート、バスケットコート、遊具の利用、公園内散策での利用が年間通じて確認された。特に、テニスコートは日中において常に利用されていた。また、朝方及び夕方には公園内での犬の散歩、寺岡山へ通じる道路での犬の散歩、ジョギング、ウォーキングが確認された。利用者の属性は、近隣住民と思われるグループ及び個人、小中学生を中心とした部活動と思われるグループ及び個人での利用が多かった。また、遊具での遊びにおいては親子連れ及び子供同士でのグループ利用があった。

季節別には、夏季調査時は少年野球の試合が行われており、14 時頃まで観戦や応援に集まる利用者や関係者約 160 名が野球場及び公園内の広場を利用していた。また、春季及び夏季には朝方に練習で野球場を利用するグループが確認されたが、秋季及び冬季にはその利用者は確認されなかった。

表 8.11-9 利用者数調査結果（寺岡山と寺岡中央公園）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	176 名	79 名	255 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	292 名	260 名	552 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	115 名	23 名	138 名
冬季	平成 26 年 2 月 2 日（日）	152 名	49 名	201 名
合計		735 名	411 名	1,146 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季, 夏季, 秋季, 冬季, : 7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-10 寺岡山と寺岡中央公園の利用状況

調査時期	春季	春季
利用状況	 <p>犬の散歩をする利用者</p>	 <p>バードウォッチングをする利用者</p>
調査時期	夏季	夏季
利用状況	 <p>野球場を利用するグループ</p>	 <p>テニスコートを利用するグループ</p>
調査時期	秋季	秋季
利用状況	 <p>バスケットコートを利用するグループ</p>	 <p>園内でキャッチボールをする利用者</p>
調査時期	冬季	冬季
利用状況	 <p>池の周辺を散策する利用者</p>	 <p>寺岡山への道路をジョギングするグループ</p>

※：撮影日は表 8.11-9に示す各時期の調査日である。

b) 白石城跡

白石城跡における主な施設の状況は、写真8.11-2(1)～(2)及び図 8.11-3に示すとおりである。

白石城跡は根白石地区の高台にある東西約 100m、南北約 80mに及ぶ戦国時代の城跡で、現在も北側から西側にかけて土塁や外側の空堀が残っている。歴史書である「古城書上」には当時の城主は白石三河（しろいしみかわ）と記されており、この城主の名をとって白石城と呼ばれるようになったと伝えられている。城跡には宇佐八幡や三十三観音が祀られており、裁松院（伊達政宗の祖母、伊達晴宗の正室）の墓がある。



① 黒川安芸（黒川氏十一世季氏）の墓



② 裁松院の墓



③ 三十三観音堂



④ 忠魂碑



⑤ 集会所



⑥ 宇佐八幡神社

写真 8.11-2(1) 主な施設の状況（白石城跡）（平成 26 年 8 月 24 日撮影）（1/2）



⑦ 兎口神社



⑧ 神輿を保管する建物

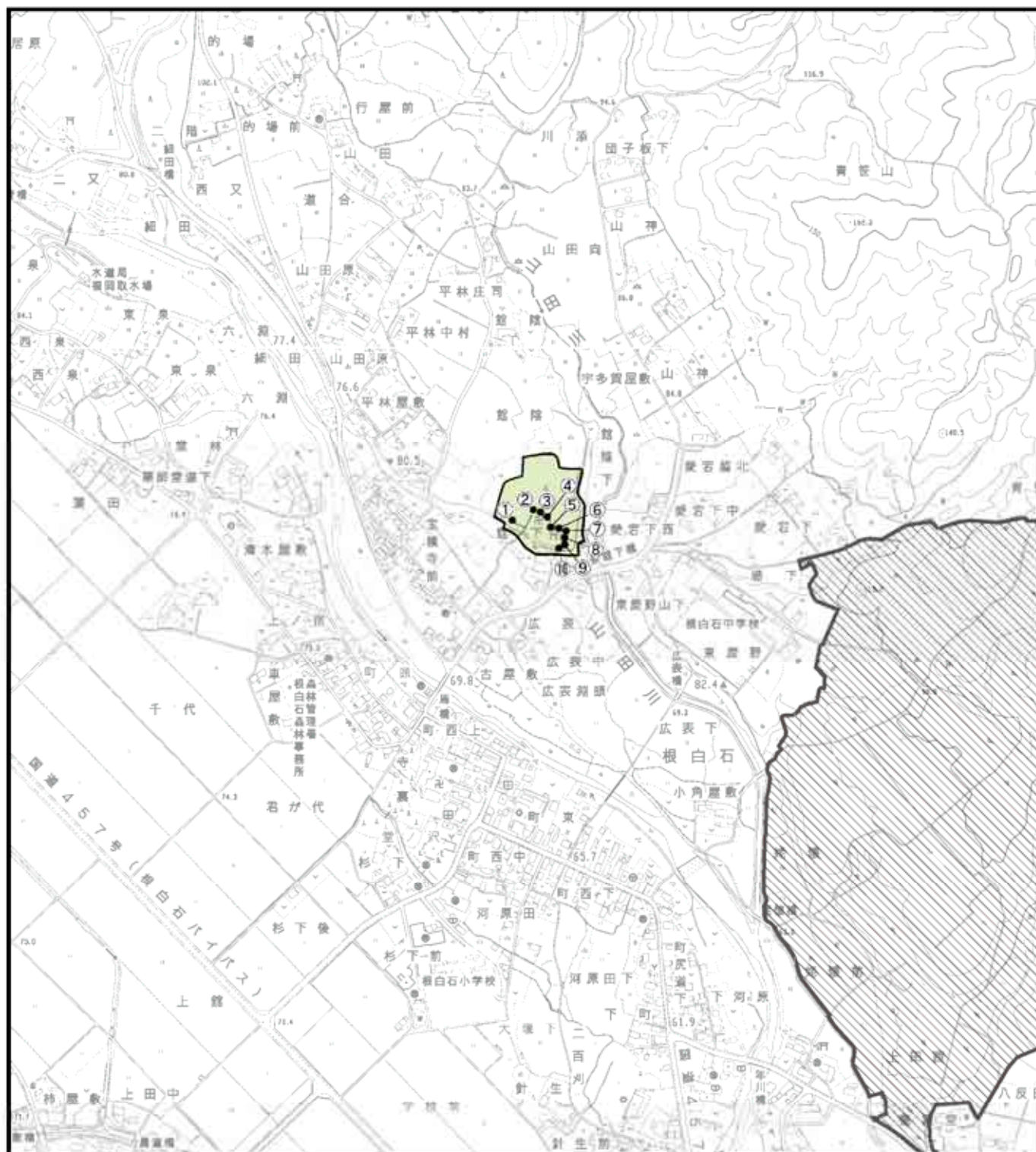


⑨ 愛宕神社





⑩ 鐘楼

写真 8.11-2(2) 主な施設の状況（白石城跡）（平成26年8月24日撮影）（2/2）



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 調査地点 (白石城跡)

・ : 主な施設

- | | |
|----------------------|-------------|
| ① 黒川安芸 (黒川氏十一世季氏) の墓 | ⑥ 宇佐八幡神社 |
| ② 栽松院の墓 | ⑦ 兎口神社 |
| ③ 三十三観音堂 | ⑧ 神輿を保管する建物 |
| ④ 忠魂碑 | ⑨ 愛宕神社 |
| ⑤ 集会所 | ⑩ 鐘楼 |



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-3
主な施設の分布状況
(白石城跡)

現地調査時における利用者数は、表 8.11-11に示すとおりである。利用者は大人が 7 割程度であった。調査日における利用人数は、春季 15 名、夏季 1 名、秋季 6 名、冬季 5 名であった。利用者の主な交通手段は、徒歩、自転車であった。

白石城跡の利用状況は、表 8.11-12に示すとおりである。利用内容は参拝、散策、広場での遊びが多く、利用者の属性は近隣住民と思われる大人及び子供の利用が目立った。一日を通して利用者数は少なく、利用者が時間帯関係なく数名確認される状況であった。

春季調査時には、白石城跡の鳥居前では小学生がボール遊び、おにごっこをして遊んでいる状況が確認され、小学生の遊び場としても利用されているものと考えられる。冬季調査時においては、境内の広場にどんと祭が行われたと思われる焼け跡が確認された。







表 8.11-11 利用者数調査結果（白石城跡）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	10 名	5 名	15 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	1 名	0 名	1 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	4 名	2 名	6 名
冬季	平成 26 年 2 月 2 日（日）	5 名	0 名	5 名
合計		20 名	7 名	27 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季、夏季、秋季、冬季、：7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-12 白石城跡の利用状況

調査時期	春季	春季
利用状況	 <p>鳥居付近で遊ぶ子供達</p>	 <p>白石城跡を散策する利用者</p>
調査時期	夏季	秋季
	 <p>夏季の利用はほとんど確認されなかった</p>	 <p>参拝する利用者</p>
調査時期	冬季	冬季
利用状況	 <p>参拝する利用者</p>	 <p>どんと祭が実施されたと思われる焼跡</p>

※：撮影日は表 8.11-11に示す各時期の調査日である。

c) 貴船神社

貴船神社における主な施設の状況は、写真8.11-3 及び図 8.11-4に示すとおりである。

貴船神社は利府に祀られていたが、その後塩竈に移り、仙台藩四代藩主伊達綱村が元禄9年(1696年)、京都の貴船神社が賀茂川の上流に位置していたことにちなんで、七北田川の上流域にあたる根白石地区に遷したものである。

箱棟の菊、桐の彫刻は利府に祀られてあった頃、その地を支配していた留守氏の紋所である。また、祭神は水を司る高瀬神（たかおかみのかみ）で、降雨や晴天を祈願した神である。

境内入口には、大きなシダレザクラの古木があり、鳥居を覆うように濃いピンクの花を咲かせる。満開時には、長く垂れた枝の花が春風にゆれ、趣のある美しい風情を見せる。また、周囲の水田に水が張られる頃になると、杉林に囲まれた鎮守の杜は水田に浮かぶ島のような風景になる。



① 貴船神社



② 集会所



③ 鐘楼

写真 8.11-3 主な施設の状況（貴船神社）（平成26年8月24日撮影）



現地調査時における利用者数は、表 8.11-13に示すとおりである。調査日における利用人数は、夏季 3 名、秋季 2 名で、春季及び冬季調査時には利用者は確認されなかった。利用者は近隣住民と思われ、交通手段は徒歩であった。

貴船神社の利用状況は、表 8.11-14に示すとおりである。利用内容は、犬の散歩、散策での利用であった。一日を通して利用者数は少なく、犬の散歩は朝方、散策は夕方に見られた。冬季調査時には、境内の一部にどんと祭が行われたと思われる焼け跡が確認された。

表 8.11-13 利用者数調査結果（貴船神社）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	0 名	0 名	0 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	1 名	2 名	3 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	2 名	2 名	2 名
冬季	平成 26 年 2 月 2 日（日）	0 名	0 名	0 名
合計		3 名	4 名	5 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季, 夏季, 秋季, 冬季, : 7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-14 貴船神社の利用状況

調査時期	春季	夏季
利用状況	 貴船神社を周辺道路から望む（シダレザクラ）	 利用なし
調査時期	秋季	冬季
利用状況	 同上	 どんと祭が実施されたと思われる焼跡

※：撮影日は表 8.11-13に示す各時期の調査日である。

d) 紫山公園

紫山公園における主な施設の状況は、写真8.11-4(1)～(3)及び図 8.11-5に示すとおりである。

紫山地区の中央を通るメタセコイア並木の道路を上がっていくと現れる、自然林を活かした広大な公園である。水が豊かな壁泉や芝生広場があり、長さ 40mのローラー滑り台やフィールドアスレチックなどが楽しめる。一周約 1.5km ある外周路、自然林が残る散歩道、周辺を一望できる展望台等、散策も楽しむことができる。



① 水飲み場



② 遊具



③ 遊具



④ あずまや



⑤ あずまや



⑥ あずまや

写真 8.11-4(1) 主な施設の状況（紫山公園）（平成 26 年 8 月 24 日撮影）（1/3）



⑦ あずまや



⑧ あずまや



⑨ あずまや



⑩ あずまや



⑪ 遊具



⑫ あずまや



⑬ 壁泉



⑭ 案内板

写真 8.11-4(2) 主な施設の状況（紫山公園）（平成26年8月24日撮影）（2/3）



⑮ 水飲み場

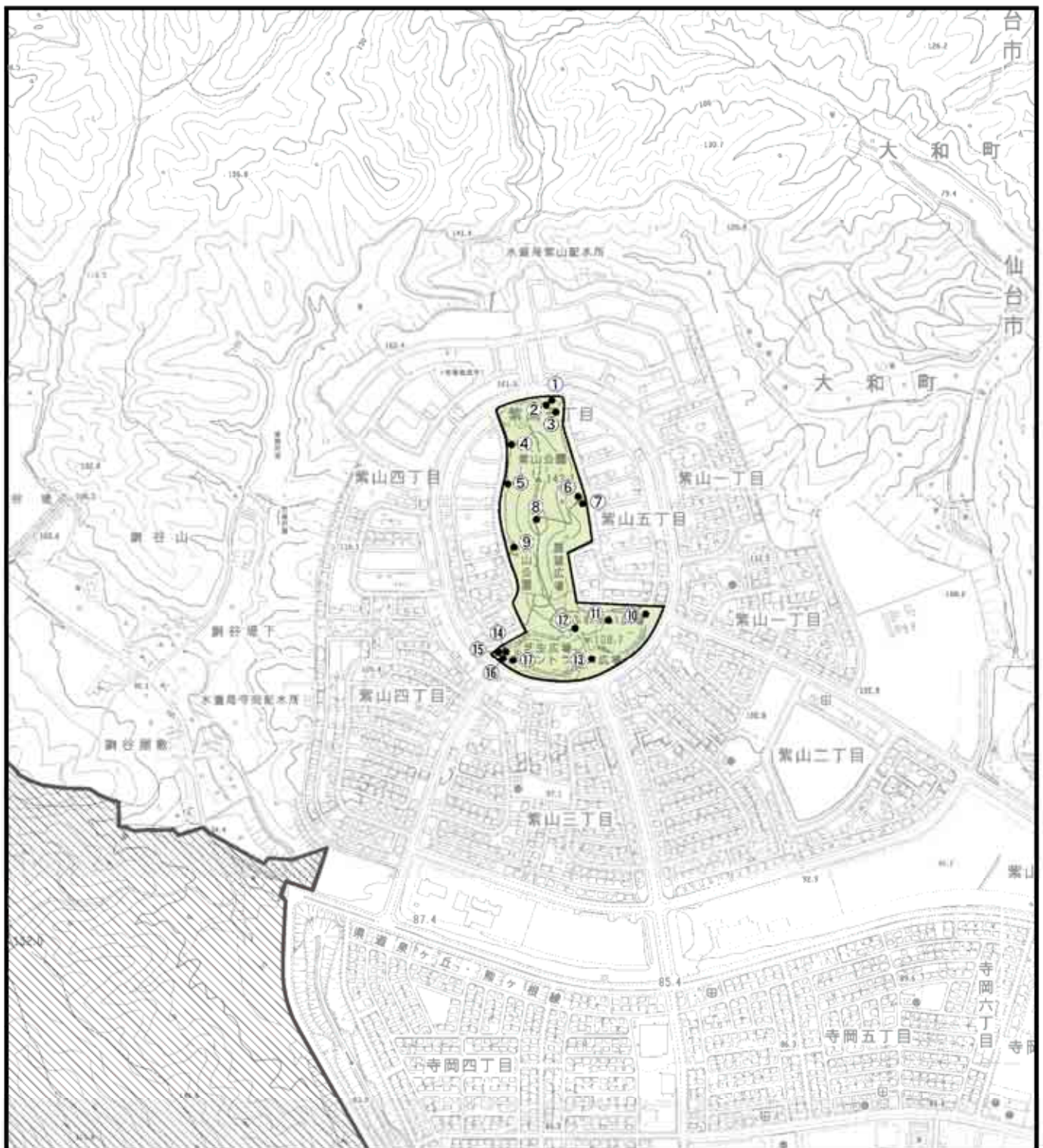


⑯ トイレ





⑰ 遊具

写真 8.11-4(3) 主な施設の状況（紫山公園）（平成26年8月24日撮影）（3/3）



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 調査地点（紫山公園）

・ : 主な施設

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 水飲み場 | ⑦ あずまや | ⑬ 壁泉 |
| ② 遊具 | ⑧ あずまや | ⑭ 案内板 |
| ③ 遊具 | ⑨ あずまや | ⑮ 水飲み場 |
| ④ あずまや | ⑩ あずまや | ⑯ トイレ |
| ⑤ あずまや | ⑪ 遊具 | ⑰ 遊具 |
| ⑥ あずまや | ⑫ あずまや | |



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-5
主な施設の分布状況
(紫山公園)

現地調査時における利用者数は、表 8.11-15に示すとおりである。調査日における利用人数は、春季 719 名、夏季 216 名、秋季 362 名、冬季 437 名であり、春季の利用者数が最も多かった。利用者の主な交通手段は、徒歩、自転車及び自動車であった。

紫山公園の利用状況は、表 8.11-16に示すとおりである。遊具遊び、犬の散歩、ウォーキング、サッカーやキャッチボール、フリスビー等での利用が多く、利用内容は多岐に渡っていた。なお、全体的に親子連れ、子供同士、夫婦での利用が多く、林内散策路は比較的高齢の方の利用が多かった。

春季調査時は、朝方は徒歩で来園し、犬の散歩やウォーキングをする近隣住民の割合が多かった。昼頃にかけて徐々に車で来園する割合が高くなり、親子連れや子供同士など 170 人程の利用者が確認された。遊具や広場で遊ぶ子供達や、ベンチや広場に広げたレジャーテントから子供達を見守る両親の姿が多く見られ、昼食時にはあずまややレジャーテントでお弁当を楽しむ家族が見られた。午後とも公園内の利用方法はほとんど変わらず、遊具遊び等が確認された。

夏季調査時は、11 時前後と 15 時以降は約 40～70 人の利用者が見られたが、その他の時間帯は 20 人程度であった。他の季節と比べて広場の利用者が少なく、主に遊歩道での散歩やボール遊びをする人が多かった。15 時以降は、ウォーキングや犬の散歩での利用者数が多く、やや涼しくなってから公園内を利用する傾向が見られた。

秋季調査時は、春季調査の利用形態とほぼ同様であり、親子連れや子供同士が広場の遊具で遊ぶ姿が目立った。また、広場ではキャッチボール、サッカー、フリスビー等を楽しむ親子も見られた。7 時～9 時頃には、林内散策路内で紅葉を鑑賞しながらウォーキングする大人が比較的多く確認された。

冬季調査時は、遊具遊びや犬の散歩で来ている人が大半を占めていた。広場では凧あげやフリスビーで遊ぶ親子が多く、一方で遊具遊びでは他の時期と比べて子供同士での遊びが多く確認された。また、周辺から徒歩で来園する人が多く、車で来園する利用者はほとんどいなかった。なお、現地調査実施日ではないが、積雪時には公園内の斜面を利用してそりすべりや雪だるま作りを楽しむ親子連れが確認された。

表 8.11-15 利用者数調査結果（紫山公園）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	398 名	321 名	719 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	177 名	39 名	216 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	231 名	131 名	362 名
冬季	平成 26 年 2 月 2 日（日）	286 名	151 名	437 名
合計		1,092 名	642 名	1,734 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季、夏季、秋季、冬季、：7:00、9:00、11:00、13:00、15:00、17:00

表 8.11-16 紫山公園の利用状況

調査時期	春季	春季
利用状況	 <p>遊具で遊ぶ親子連れ</p>	 <p>林内散策路をウォーキングする利用者</p>
調査時期	夏季	夏季
利用状況	 <p>犬の散歩をする利用者</p>	 <p>公園内で昼食をとる親子</p>
調査時期	秋季	秋季
利用状況	 <p>遊歩道で一輪車の練習をする親子</p>	 <p>芝生で遊ぶ親子</p>
調査時期	冬季	冬季
利用状況	 <p>凧あげをして遊ぶ親子</p>	 <p>積雪時にそりすべり等で遊ぶ親子連れ</p>

※：撮影日は表 8.11-15に示す各時期の調査日である。

e) 満興寺

満興寺における主な施設の状況は、写真8.11-5 及び図 8.11-6に示すとおりである。

満興寺は、永徳2年（西暦1382年）に岩手県永徳寺梅雪禅東が開山したと伝えられる古刹の一つである。現在の本堂は明治時代に造営されたものであるが、農家を移築して作ったものとされ他の寺の形とは趣を異にしている。

山門は4代藩主綱村公の時代に建替えられたままのものとも、永安寺より移築されたものとも伝えられている。山門の屋根は、防火のため昭和初年に萱葺きから瓦葺きに改められ、当初の部材は桁や門柱だけとなっている。正面と背面の外観は一変し、正面は角柱の上に冠木をのせるなど端正な造りであるのに対し、背面は豪快な丸太の骨組みをそのまま現している。

また、満興寺の七不思議と言われるさまざまな伝説が残されている。



① 池



② 本堂



③ 山門

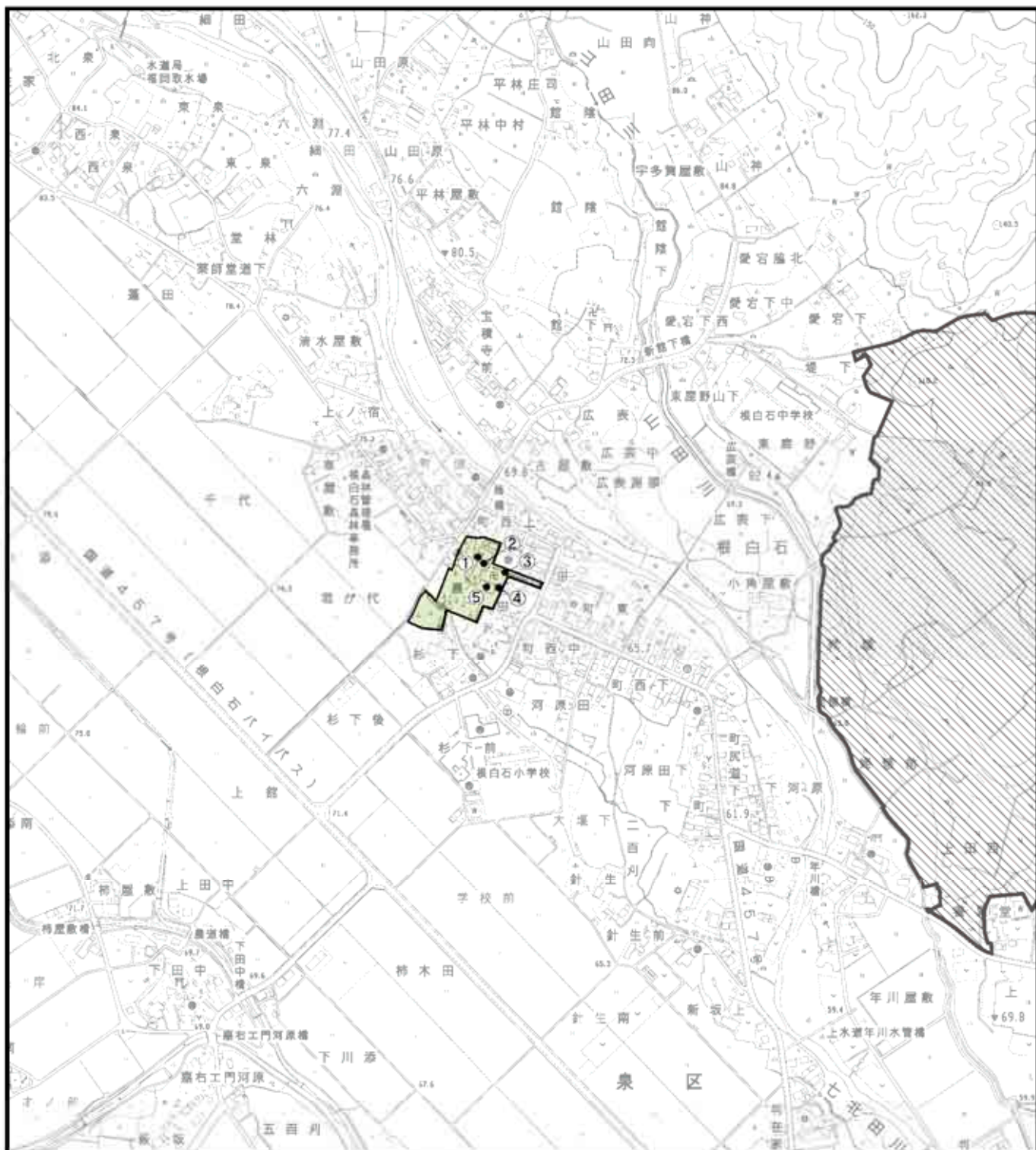


④ 茶枳尼天社



⑤ 客殿

写真 8.11-5 主な施設の状況（満興寺）（平成26年8月24日撮影）



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 調査地点 (満興寺)
- : 主な施設
 - ① 池
 - ② 本堂
 - ③ 山門
 - ④ 茶沢尼天社
 - ⑤ 客殿



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-6
主な施設の分布状況
(満興寺)

現地調査時における利用者数は、表 8.11-17に示すとおりである。調査日における利用人数は、春季 23 名、夏季 86 名、秋季 31 名、冬季 1 名であり、利用者の 8 割が大人であった。利用者は近隣住民と思われ、主な交通手段は徒歩及び自動車であった。

満興寺の利用状況は、表 8.11-18に示すとおりである。利用内容のほとんどは墓参りであり、犬の散歩が一部見られた。また、墓参りの利用時間帯には明瞭な傾向は無く、一日を通して数名から数十名の利用者が確認された。特に、夏季調査時は盆明けであったため、春季及び秋季に比べて利用者が多かったものと考えられる。一方で、冬季調査では墓参りをする利用者は確認されず、犬の散歩のみであった。

表 8.11-17 利用者数調査結果（満興寺）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	18 名	5 名	23 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	72 名	14 名	86 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	28 名	3 名	31 名
冬季	平成 27 年 2 月 8 日（日）	1 名	0 名	1 名
合計		119 名	22 名	141 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季、夏季、秋季、冬季、：7:00、9:00、11:00、13:00、15:00、17:00

表 8.11-18 満興寺の利用状況

調査時期	春季	夏季
利用状況	 墓参りをする利用者	 墓参りをする利用者
調査時期	秋季	冬季
利用状況	 墓参りをする利用者	 利用者はほとんど確認されなかった

※：撮影日は表 8.11-17に示す各時期の調査日である。

f) 七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）

七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）における主な施設の状況は、写真8.11-6 及び図 8.11-7に示すとおりである。

鼻毛橋～今宮堰付近は、水田地帯の中を流下する区間である。鼻毛橋付近は、泉ヶ岳を背景に兩岸の木々の葉が新緑から深緑へ、紅葉から落葉へと移り変わる自然の姿を堪能することができる。また、鼻毛橋から少し上流にある今宮堰も水と緑が織りなす四季の美しさを楽しめるところで、堰から流れ落ちる清流や心地よい水音が訪れる人たちに安らぎを与えてくれる箇所である。今宮堰は小角地区の田に水を供給する重要な役割を担っている。

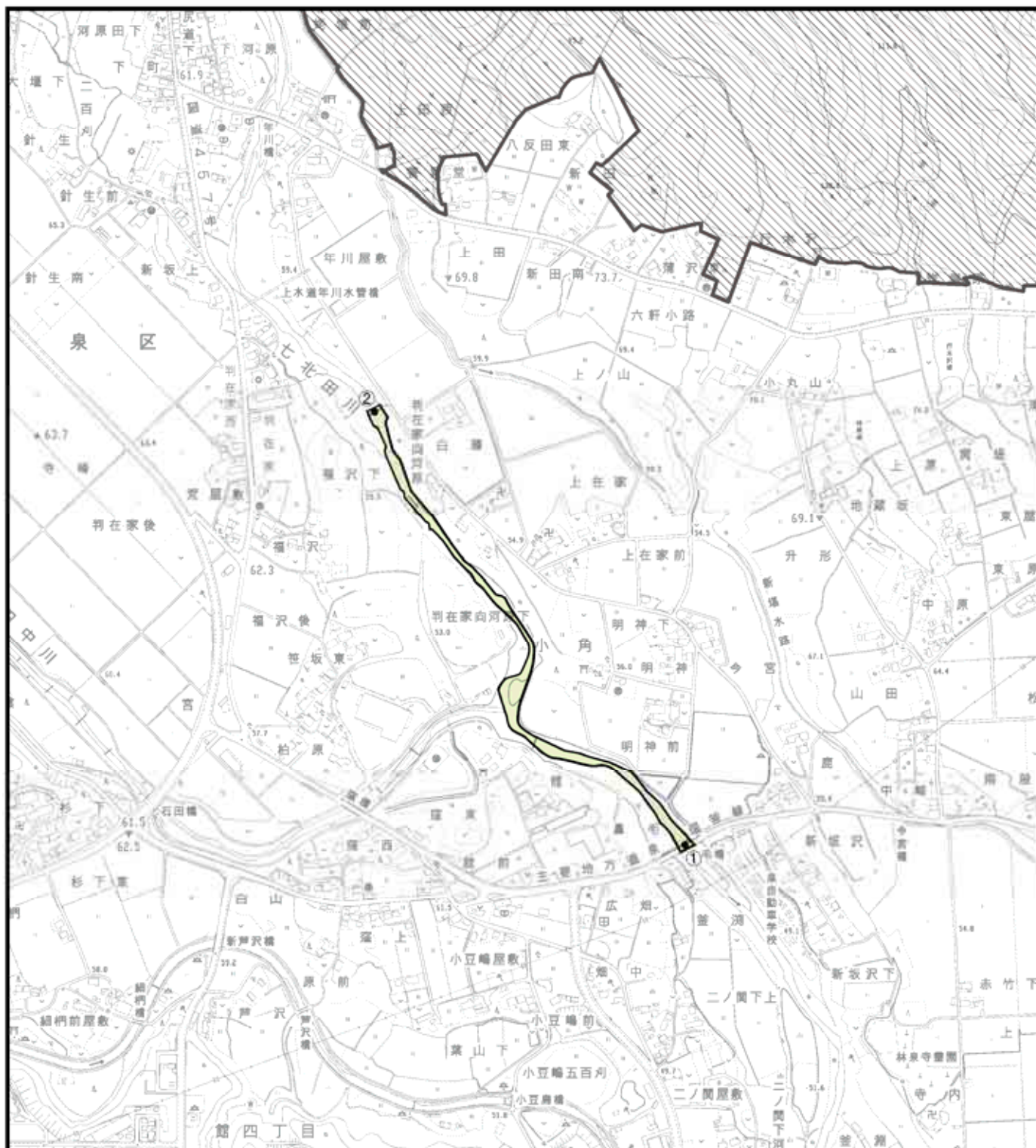


① 鼻毛橋
(鼻毛橋から見る七北田川と泉ヶ岳)





② 今宮堰

写真 8.11-6 主な施設の状況（七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近））（平成 26 年 8 月 24 日撮影）



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 調査地点（七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近））
- ・ : 主な施設
 - ① 鼻毛橋
 - ② 今宮堰



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-7
主な施設の分布状況
（七北田川（鼻毛橋
～今宮堰付近））

現地調査時における利用者数は、表 8.11-19に示すとおりである。調査日における利用人数は、春季 5 名、夏季 4 名で、秋季及び冬季調査時には利用者は確認されなかった。利用者は近隣住民と思われ、交通手段は徒歩及び自動車であった。

七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）の利用状況は、表 8.11-20に示すとおりである。利用内容は釣りであった。一日を通して釣りをしていることは無く、いずれの時間帯においても数十分程度の利用であった。

表 8.11-19 利用者数調査結果（七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近））

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	5 名	0 名	5 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	4 名	0 名	4 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	0 名	0 名	0 名
冬季	平成 27 年 2 月 8 日（日）	0 名	0 名	0 名
合計		9 名	0 名	9 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季, 夏季, 秋季, 冬季, : 7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-20 七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）の利用状況

調査時期	春季	夏季
利用状況	 <p>釣りをする利用者</p>	 <p>釣りをする利用者</p>
調査時期	秋季	冬季
利用状況	 <p>利用なし</p>	 <p>利用なし</p>

※：撮影日は表 8.11-19に示す各時期の調査日である。

g) 七北田川（馬橋付近）

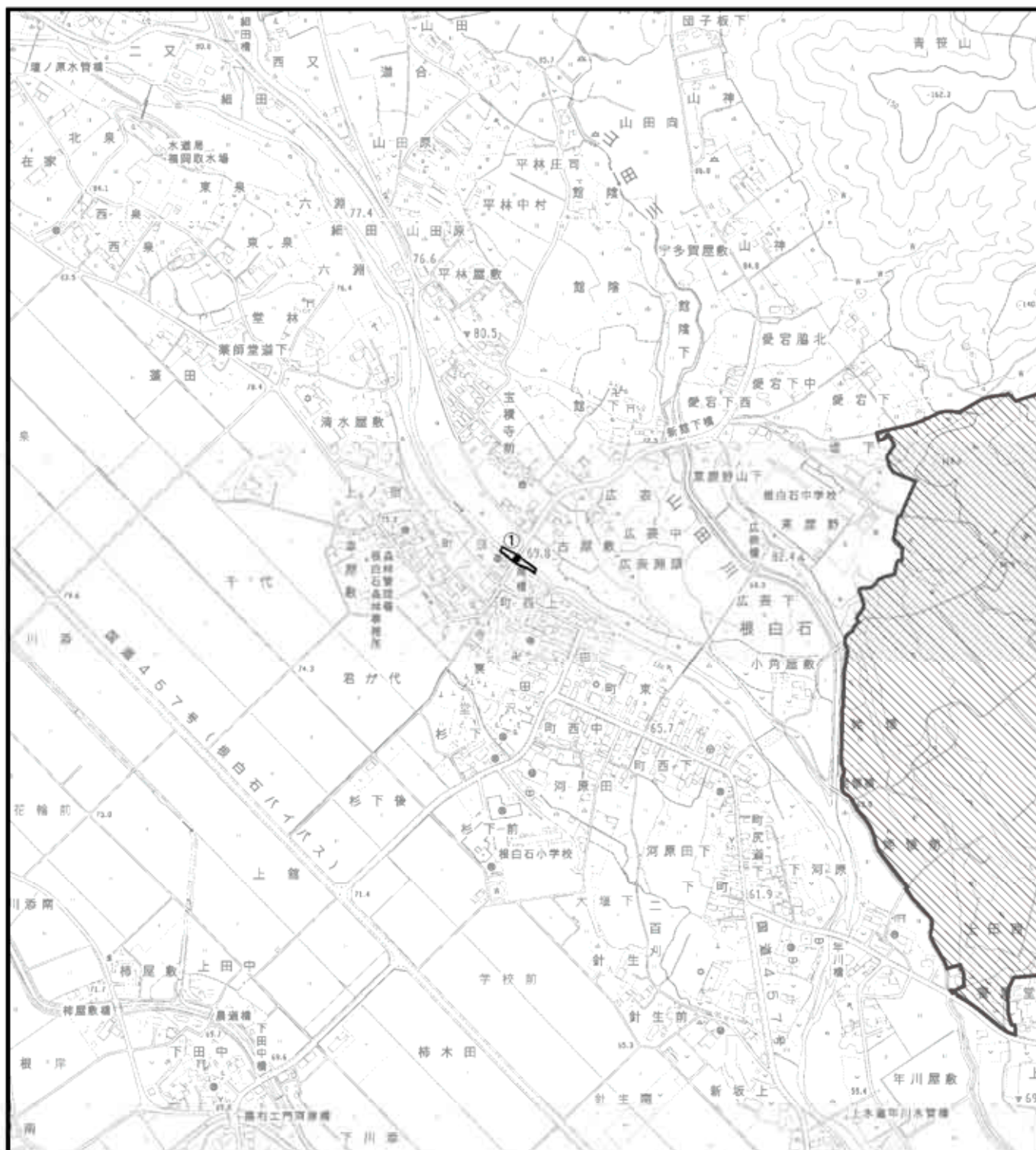
七北田川（馬橋付近）における主な施設の状況は、写真8.11-7 及び図 8.11-8に示すとおりである。

馬橋付近は、根白石地区の中心部及び水田地帯の中を流下する区間である。馬橋付近は、市街地側である右岸が護岸張り、水田地帯である左岸側が自然堤防であり、特に左岸側には植生が繁茂する状況にある。一方で、水田等から七北田川へ通じる歩行路等はなく、人の出入りが不可能な箇所である。また、馬橋付近より下流側に新堰があることから、川の流れは緩やかである。



① 馬橋

写真 8.11-7 主な施設の状況（七北田川（馬橋付近））（平成 26 年 8 月 24 日撮影）



凡 例

：対象事業計画地

: 調査地点 (七北田川 (馬橋付近))

- 主な施設

① 馬橋



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-8
主な施設の分布状況
(七北田川（馬橋付近））

現地調査時における利用者数は、表 8.11-21に示すとおりである。調査日における利用人数は、春季 1 名、夏季 1 名、冬季 3 名で、秋季調査時には利用者は確認されなかった。利用者は近隣住民と思われ、交通手段は自動車であった。

七北田川（馬橋付近）の利用状況は、表 8.11-22に示すとおりである。利用内容は、釣り、散歩、バードウォッチングであった。いずれも午前中の利用の確認であり、午後にはいずれの調査日も利用者は確認されなかった。また、馬橋付近は下流側に新堰があり川の流れが比較的緩いことから、冬季調査時には白鳥が羽を休める状況が確認された。

表 8.11-21 利用者数調査結果（七北田川（馬橋付近））

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	1 名	0 名	1 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	1 名	0 名	1 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	0 名	0 名	0 名
冬季	平成 27 年 2 月 8 日（日）	3 名	0 名	3 名
合計		5 名	0 名	5 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季, 夏季, 秋季, 冬季, : 7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-22 七北田川（馬橋付近）の利用状況

調査時期	春季	夏季
利用状況	 <p>河川内に入り釣りをする利用者</p>	 <p>馬橋より上流側を望む</p>
調査時期	秋季	冬季
利用状況	 <p>馬橋より下流側を望む</p>	 <p>羽休めをする白鳥</p>

※：撮影日は表 8.11-21に示す各時期の調査日である。

h) 山田川

山田川における主な施設の状況は、写真8.11-8 及び図 8.11-9に示すとおりである。

調査箇所付近の山田川は、七北田川から新館下橋までの区間がコンクリートの三面張り護岸水路、新館下橋より上流側は土水路の様相を見せる。既往文献調査によれば、根白石中学校がゲンジボタルの群生地の観察会を実施していた河川である。

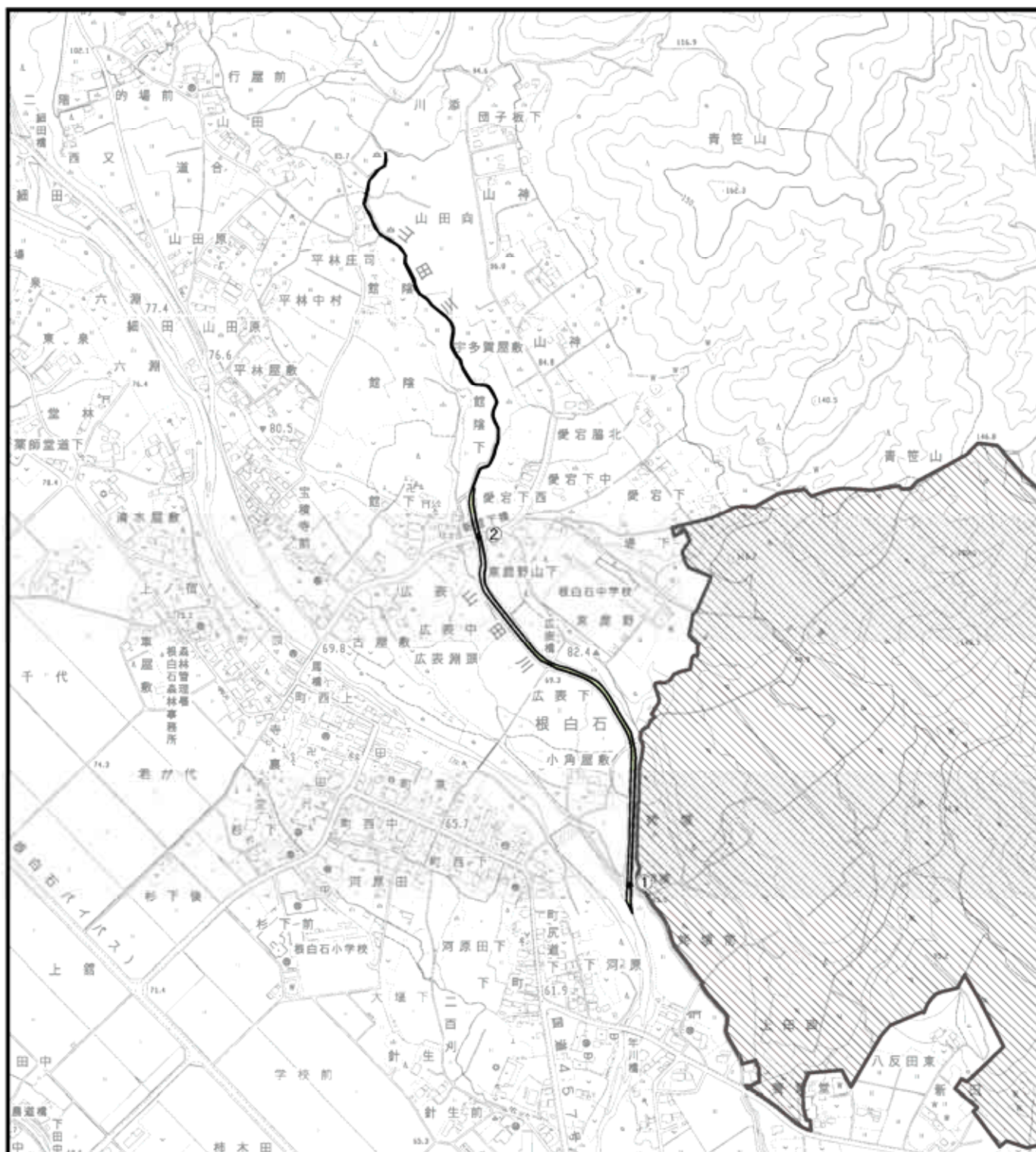


① 姥懷橋



② 新館下橋

写真 8.11-8 主な施設の状況（山田川）（平成 26 年 8 月 24 日撮影）



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 調査地点 (山田川)
- : 主な施設
 - ① 姥懐橋
 - ② 新館下橋



S=1:10,000

0 100 200 400m

図 8.11-9
主な施設の分布状況
(山田川)

現地調査時における利用者数は、表 8.11-23に示すとおりである。調査日における利用人数は、夏季 4 名、冬季 4 名で、春季及び秋季調査時には利用者は確認されなかった。利用者は近隣住民と思われ、交通手段は徒歩であった。

山田川の利用状況は、表 8.11-24に示すとおりである。利用内容は、釣り、遊び、散歩であった。夏季調査時の夕方には土手で遊ぶ子供のグループが確認された。また、冬季調査時の朝方には近隣住民が散歩する状況が確認された。

表 8.11-23 利用者数調査結果（山田川）

調査日		大人	小人	合計
春季	平成 26 年 5 月 3 日（土・祝）	0 名	0 名	0 名
夏季	平成 26 年 8 月 17 日（日）	1 名	3 名	4 名
秋季	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）	0 名	0 名	0 名
冬季	平成 27 年 2 月 8 日（日）	4 名	0 名	4 名
合計		5 名	3 名	8 名

※利用者数は以下の時間帯において測定した利用者数の合計を記載した。

春季, 夏季, 秋季, 冬季, : 7:00, 9:00, 11:00, 13:00, 15:00, 17:00

表 8.11-24 山田川の利用状況

調査時期	春季	夏季
利用状況		
	山田川の状況	山田川の状況
調査時期	秋季	冬季
利用状況		
	山田川の状況	土手を散歩する利用者

※：撮影日は表 8.11-23に示す各時期の調査日である。

③ 触れ合いの場の特性

対象事業計画地周辺には、根白石地区、実沢地区、小角地区及び本事業の泉パークタウンの他住区である寺岡地区及び紫山地区が位置している。また、七北田川及び山田川が対象事業計画地南西側（根白石地区、小角地区、実沢地区）を南～南西へ流下している。

【根白石地区】

根白石地区では、学校、地域住民、商店会等により、授業や伝承まつり等の地域行事を通じて、町の歴史・文化に触れ合う活動が行われている。また、白石城跡や裁松院（伊達正宗の祖母、伊達晴宗の正室）の墓、満興寺等の歴史的建造物が残っており、根白石中心部の街並みも歴史的風情を感じさせる地区となっている。小学校や中学校では、七北田川で水質検査や水生動物の調査を授業や総合学習の一環として実施する等、河川の自然に触れ合う機会が持たれている。動植物調査においても、コハクチョウ、カルガモ、カワセミ、カワウ、アオサギ、カワガラス等の水域性鳥類が確認されており、鳥類の水辺の休息場となっている。

【実沢地区及び小角地区】

実沢地区及び小角地区は、主に水田地帯となっている。小学校では、授業の一環として植物や昆虫の観察等が行われている。また、根白石地区同様に、貴船神社に代表される歴史的建造物やシダレザクラの古木が存在し、趣のある風情を見せている。七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）においては、兩岸の木々の葉が新緑から深緑、紅葉から落葉へと移り変わる自然の姿を堪能することが出来る。今宮堰も水と緑が織りなす四季の美しさを楽しめるところで、堰から流れ落ちる清流や心地よい水音が訪れる人たちに安らぎを与えてくれる等、田園の風情を残す地区となっている。

【寺岡地区及び紫山地区】

泉パークタウンの他住区である寺岡地区は 1980 年に、紫山地区は 1997 年に供用が開始され、自然と調和した快適な生活環境を、暮らす人とともに創り育てていくという“環境共有”の考え方のもとに、統一感ある美しい街並が形成されている。その中で寺岡山は地域住民の散歩やジョギングコース、小学校や中学校での授業や課外活動による動植物の観察や散策等、自然と触れ合う活動の場として利用されている。寺岡中央公園においては、スポーツ競技・練習の場、憩いの場、遊びの場として、幅広く利用されている。紫山公園は自然林を活かした広大な公園で、水が豊かな壁泉や芝生広場、長さ 40m のローラー滑り台、自然林が残る散歩道、周辺を一望できる展望台等があり、家族連れでの憩いの場、子供同士での遊びの場として幅広く利用されている。

以上から、対象事業計画地周辺は、田園環境や都市環境、水辺環境、歴史的風土といった様々な環境を有する地域となっている。

8.11.2. 予測

(1) 工事による影響（資材等の運搬）

ア 予測内容

予測内容は、資材等の運搬による触れ合いの場の状況への影響とした。

イ 予測地点

予測地点は、調査地点と同様とした。

ウ 予測対象時期

予測対象時期は資材等の運搬による自然との触れ合いの場への影響が最大になる時期とし、工事用車両の走行台数が最大となる時期とした。

エ 予測方法

予測方法は、自然との触れ合いの場の分布及び特性解析結果と造成工事計画との重ね合わせにより予測するものとした。

オ 予測結果

資材等の運搬による走行ルートと自然との触れ合いの場の重ね合わせ図は図 8.11-10、対象事業計画地周辺の路線における工事中交通量及び工事用車両の割合は表 8.11-25に示すとおりである。

資材等の運搬による工事用車両は、対象事業計画地周囲の3箇所（ゲート1～3）から出入りすることとしている。対象事業計画地周辺の路線における工事中の交通量に占める工事用車両の割合は、国道457号が4.5%、市道桐ヶ崎年川線が1.6%、市道荒巻根白石線（寺岡3丁目付近）が0.6%、市道宮沢根白石線が1.6%、市道七北田実沢線が0.7%、市道荒巻根白石線（実沢飛鳥原付近）が1.5%と予想される。

資材等の運搬による工事用車両の走行経路と自然との触れ合いの場を重ね合わせた結果、予測地点2, 3, 5, 6, 7及び8についてはアクセスルートを工事用車両が走行することはなく、利用状況に及ぼす影響はない。

予測地点1, 4については、自動車での来園者が現地調査で確認されており、寺岡地区と紫山地区の地区境を横断する市道宮沢根白石線や、市道荒巻根白石線、市道七北田実沢線を工事用車両が通過する計画である。これらの路線は、地域住民等の利用者が予測地点1, 4へ向かうアクセスルートとして利用しているものと想定される。ただし、工事用車両の増加は0.6～1.6%であることから、自然との触れ合いの場の利用状況に及ぼす影響は小さいと予測される。また、徒歩及び自転車での利用については、歩道が整備されており、車両と人の分離がなされていることから、工事用車両による自然との触れ合いの場の利用状況に及ぼす影響は小さいと予測される。

表 8.11-25 対象事業計画地周辺の路線ごとの工事中交通量及び工事用車両の割合

路線(地点)	工事中交通量及び工事用車両の割合
国道 457 号 (泉区根白石下町)	工事中交通量 4,805 台/日 うち工事用車両 216 台/日 (4.5%)
市道桐ヶ崎年川線 (泉区根白石行木沢)	工事中交通量 6,836 台/日 うち工事用車両 110 台/日 (1.6%)
市道荒巻根白石線 (泉区寺岡3丁目)	工事中交通量 12,007 台/日 うち工事用車両 74 台/日 (0.6%)
市道宮沢根白石線 (泉区紫山2丁目)	工事中交通量 13,491 台/日 うち工事用車両 216 台/日 (1.6%)
市道七北田実沢線 (泉区寺岡1丁目)	工事中交通量 11,196 台/日 うち工事用車両 74 台/日 (0.7%)
市道荒巻根白石線 (泉区実沢飛鳥原)	工事中交通量 14,776 台/日 うち工事用車両 216 台/日 (1.5%)

※工事中の交通量は、「8.1 大気質 8.1.2 予測 (1) 工事による影響（資材等の運搬） オ
予測条件 ④交通量」参照。

(2) 工事による影響（重機の稼働、切土・盛土・掘削等）

ア 予測内容

予測内容は、重機の稼働、切土・盛土・掘削等による触れ合いの場の状況への影響とした。

イ 予測地点

予測地点は、調査地点と同様とした。

ウ 予測対象時期

予測対象時期は重機の稼働及び切土・盛土・掘削等による自然との触れ合いの場への影響が最大となる時期とし、重機の稼働台数が最大となる時期及び裸地化した面積が最大となる時期とした。

エ 予測方法

予測方法は、自然との触れ合いの場の分布及び特性解析結果と造成工事計画との重ね合わせにより予測するものとした。

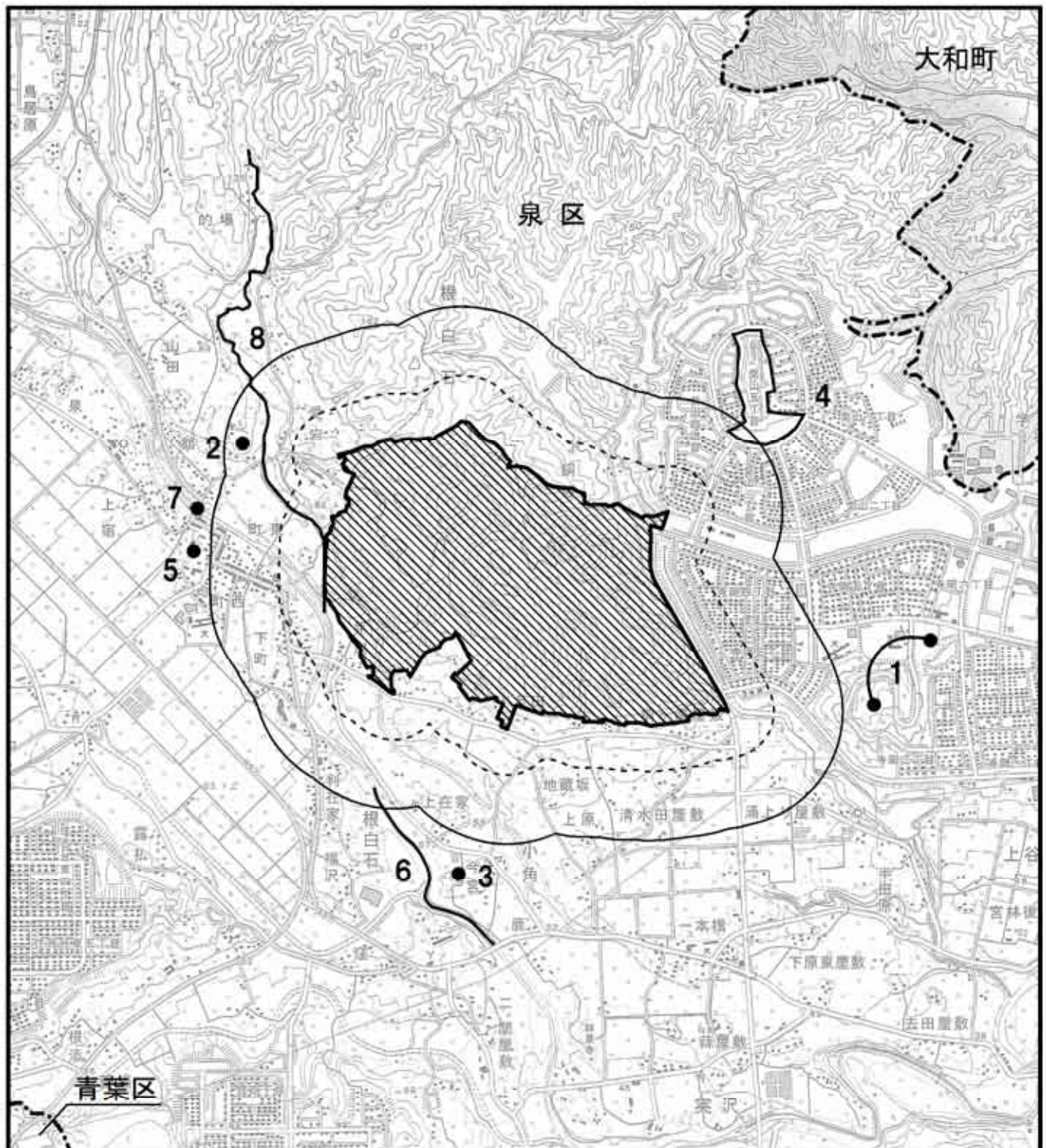
オ 予測結果

大気質の影響範囲と想定した 500m の範囲と騒音・振動の影響範囲と想定した 200m の範囲、及び自然との触れ合いの場の重ね合わせ図は、図 8.11-11に示すとおりである。


各々の影響範囲と自然との触れ合いの場を重ね合わせた結果、予測地点 1, 3, 5, 7 については重機の稼働及び切土・盛土・掘削等に係る影響範囲から離れた位置にあることから、利用状況に及ぼす影響はない。

予測地点 2, 4 については、「8.1 大気質 8.1.2 予測 (2) 工事による影響（重機の稼働）」、「8.1 大気質 8.1.2 予測 (3) 工事による影響（切土・盛土・掘削等）」に示すように、対象事業計画地の敷地境界において、環境基準及び仙台市環境基本計画定量目標、降下ばいじんの参考値を満足している。また、重機等の運転者へのアイドリングストップ等の指導・教育の徹底、粉じんの発生しやすい施工箇所への散水、周辺道路への散水・清掃等を行うことで、周囲への大気汚染物質や粉じんの飛散防止・低減の効果が期待されることから、これらの自然との触れ合いの場の利用状況への影響は小さいと予測される。なお、騒音・振動による利用状況への影響は、影響範囲から離れた位置にあることから、無いものと想定される。

予測地点 6, 8 については、現地調査にて確認された利用者数が少ないことや、「8.4 水質 8.1.4 予測 (1) 工事による影響（切土・盛土・掘削等）」に示すように、工事に際しては仮設調整池を設置する計画としており、予測地点 6, 8 への濁水流出防止の効果が期待されることから、これらの自然との触れ合いの場の利用状況への影響は小さいと予測される。



凡 例

- | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------|---------------------|
|  | 対象事業計画地 | ● — : 自然との触れ合いの場 |
| — · — | 市区境界線 | 1 : 寺岡山と寺岡中央公園 |
| ○ | 対象事業計画地より500mの範囲 | 2 : 白石城跡 |
| ○ · ○ | 対象事業計画地より200mの範囲 | 3 : 貴船神社 |
| | | 4 : 紫山公園 |
| | | 5 : 満興寺 |
| | | 6 : 七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近） |
| | | 7 : 七北田川（馬橋付近） |
| | | 8 : 山田川 |



S=1:25,000

0 250 500 1000m

図 8.11-11
対象事業計画地、自然との
触れ合いの場及び大気質・
騒音・振動の影響範囲の
重ね合わせ図

(3) 供用による影響（資材・製品・人等の運搬・輸送）

ア 予測内容

予測内容は、資材・製品・人等の運搬・輸送による触れ合いの場の利用状況への影響とした。

イ 予測地点

予測地点は、調査地点と同様とした。

ウ 予測対象時期

予測対象時期は、供用後に全区画入居した場合を想定し、その後の1年間とした。

エ 予測方法

予測方法は、自然との触れ合いの場の分布及び特性解析結果と事業計画との重ね合わせにより予測するものとした。

オ 予測結果

発生集中交通と自然との触れ合いの場の重ね合わせ図を図 8.11-12に、対象事業計画地周辺の路線における将来交通量及び発生集中交通量の割合を表 8.11-26に示す。

対象事業計画地周辺の路線における、資材・製品・人等の運搬・輸送による現況交通量に対する将来交通量の割合は、国道 457 号が 36.5～39.0%増、市道桐ヶ崎年川線が 50.7～50.8%減、市道荒巻根白石線（寺岡 3 丁目付近）が増減なし、市道宮沢根白石線が 33.2～37.8%増、市道七北田実沢線が 18.7～19.5%増、市道荒巻根白石線（実沢飛鳥原付近）が 32.4～34.5%増と予想される。

資材・製品・人等の運搬・輸送による発生集中交通量を見込んだ将来交通量と自然との触れ合いの場を重ね合わせた結果、大和町宮床方面へ向かうと想定される車両は国道 457 号の旧道ではなく国道 457 号バイパスを利用するものと考えられることから、予測地点 2、5、7 及び 8 については利用状況に及ぼす影響は小さいと予測される。

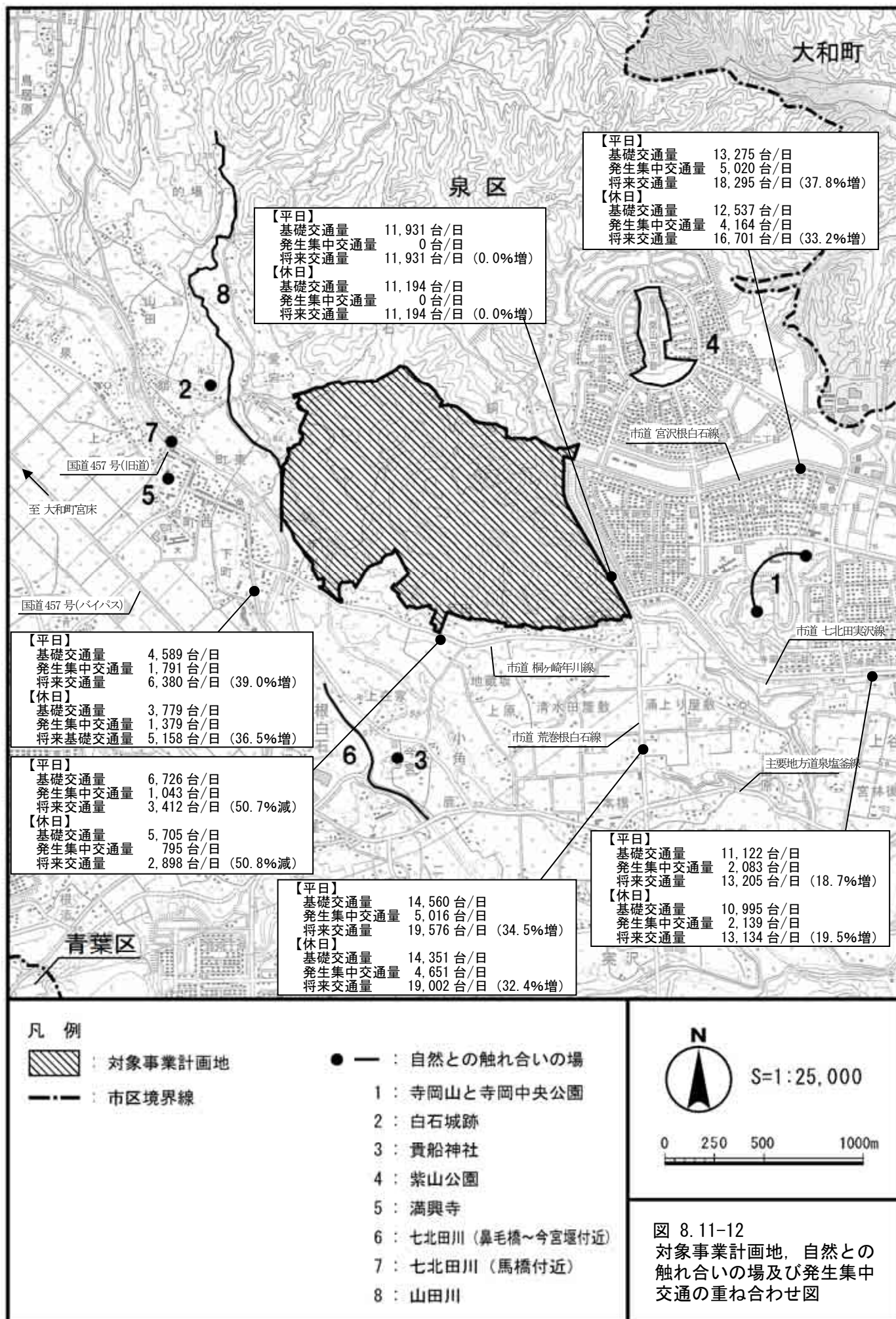
予測地点 3、6 については市道桐ヶ崎年川線の将来交通量が大幅に減少することから、利用状況に及ぼす影響は無いと予測される。

予測地点 1、4 については自動車での来園者や徒歩及び自転車での来園者が現地調査で確認されており、寺岡地区と紫山地区の地区境を横断する市道宮沢根白石線や市道七北田実沢線を、当該地点へ向かうアクセスルートとして利用しているものと想定される。資材・製品・人等の運搬・輸送により将来交通量は現況交通量より増加するが、事業計画によると地域循環型コミュニティバスの路線延長によりマイカーの利用削減を図っていることや、対象事業計画地に新たな公園を整備しており当該地点の利用が過度に集中しないものと想定されることから、利用状況に及ぼす影響は小さいと予測される。また、徒歩及び自転車での利用については、歩道が整備されており、車両と人の分離がなされていることから、利用状況に及ぼす影響は小さいと予測される。

表 8.11-26 対象事業計画地周辺の路線毎の将来交通量及び発生集中交通量の割合

地点 No.	路線(地点)	将来交通量及び発生集中交通量の割合	
1	国道 457 号 (泉区根白石下町)	平日	現況交通量 4,589 台/日 発生集中交通量 1,791 台/日 将来交通量 6,380 台/日 (39.0%増)
		休日	現況交通量 3,779 台/日 発生集中交通量 1,379 台/日 将来基礎交通量 5,158 台/日 (36.5%増)
2	市道桐ヶ崎年川線 (泉区根白石行木沢)	平日	現況交通量 6,726 台/日 発生集中交通量 1,043 台/日 将来交通量 3,412 台/日 (50.7%減)
		休日	現況交通量 5,705 台/日 発生集中交通量 795 台/日 将来交通量 2,898 台/日 (50.8%減)
3	市道荒巻根白石線 (泉区寺岡 3 丁目)	平日	現況交通量 11,931 台/日 発生集中交通量 0 台/日 将来交通量 11,931 台/日 (0.0%増)
		休日	現況交通量 11,194 台/日 発生集中交通量 0 台/日 将来交通量 11,194 台/日 (0.0%増)
4	市道宮沢根白石線 (泉区紫山 2 丁目)	平日	現況交通量 13,275 台/日 発生集中交通量 5,020 台/日 将来交通量 18,295 台/日 (37.8%増)
		休日	現況交通量 12,537 台/日 発生集中交通量 4,164 台/日 将来交通量 16,701 台/日 (33.2%増)
5	市道七北田実沢線 (泉区寺岡 1 丁目)	平日	現況交通量 11,122 台/日 発生集中交通量 2,083 台/日 将来交通量 13,205 台/日 (18.7%増)
		休日	現況交通量 10,995 台/日 発生集中交通量 2,139 台/日 将来交通量 13,134 台/日 (19.5%増)
6	市道荒巻根白石線 (泉区実沢飛鳥原)	平日	現況交通量 14,560 台/日 発生集中交通量 5,016 台/日 将来交通量 19,576 台/日 (34.5%増)
		休日	現況交通量 14,351 台/日 発生集中交通量 4,651 台/日 将来交通量 19,002 台/日 (32.4%増)

※：現況交通量，発生集中交通量，将来交通量は「8.1 大気質 8.1.2 予測 (5) 供用による影響（資材・製品・人等の運搬・輸送） オ 予測条件 ④交通量」参照。



8.11.3. 環境の保全及び創造のための措置

(1) 工事による影響（資材等の運搬）

資材等の運搬による自然との触れ合いの場の影響を予測した結果，利用状況への影響は小さいと予測された。

本事業の実施にあたっては，資材等の運搬による自然との触れ合いの場への影響を可能な限り低減するため，表 8.11-27に示す措置を講ずることとする。

表 8.11-27 環境の保全及び創造のための措置（工事による影響(資材等の運搬)）

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
工事による影響 (資材等の運搬)	<p>工事の平準化等</p> <ul style="list-style-type: none">・工事計画の策定にあたっては，工事用車両が一時的に集中しないよう工事工程を平準化し，計画的かつ効率的な運行に努める。・工事用車両の点検・整備を十分に行う。・使用する工事用車両は可能な限り低排出ガス認定自動車の採用に努める。 <p>作業員教育</p> <ul style="list-style-type: none">・新規入場者教育や作業前ミーティングにおいて，工事用車両や重機等のアイドリングストップや無用な空ふかし，過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する。 <p>交通誘導</p> <ul style="list-style-type: none">・工事用車両ゲート及び工事用車両の走行ルート上の主な交差点には，適宜，交通誘導員等を配置して通行人の安全確保と交通渋滞の緩和に努める。

(2) 工事による影響（重機の稼働、切土・盛土・掘削等）

重機の稼働、切土・盛土・掘削等による自然との触れ合いの場の影響を予測した結果、利用状況への影響は小さいと予測された。

本事業の実施にあたっては、重機の稼働、切土・盛土・掘削等による自然との触れ合いの場への影響を可能な限り低減するため、表 8.11-28に示す措置を講ずることとする。

表 8.11-28 環境の保全及び創造のための措置（工事による影響（重機の稼働、切土・盛土・掘削等））

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
工事による影響 （重機の稼働、 切土・盛土・掘削等）	<p>●工事の平準化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画の策定にあたっては、重機の過度な集中稼働を行わないよう工事工程を平準化し、重機の効率的な稼働（稼働台数・時間の削減）に努める。 ・工事の規模に応じた適切な重機を使用し、保全対象に近い位置では不必要に多数又は過大な重機での作業を行わない。 ・重機の点検・整備を十分に行う。 <p>●作業員教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規入場者教育や作業前ミーティングにおいて、重機等のアイドリングストップや高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する。 <p>●作業の管理等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛土材を一時保管する場合には、必要に応じて防塵シート等で盛土材を覆い粉じんの飛散を防止する。 ・強風により粉じんの発生が予想される場合は、対象事業計画地内や周辺道路への散水・清掃等を十分に行い、粉じんの発生を抑制する。 ・工事用車両出入口ゲートにはタイヤ洗浄装置を設置し、工事用車両の出入りによる粉じんの飛散防止に努める。 <p>●排出ガス対策型重機の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用する重機は可能な限り最新の排出ガス対策型を採用するとともに、低騒音・低振動型の採用に努め可能な範囲で省エネモードでの作業に努める。 <p>●濁水防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設調整池の貯水池及び堤体の管理のほか、仮沈砂池に堆積した土砂は適宜除去する。 ・造成後の裸地については、速やかに転圧、緑化を施すなどの工事計画を立てることにより、濁水発生を抑制する。 ・長期間の裸地となることで土砂の流出の可能性が生じた場合には、必要に応じてシート等で覆うことや仮設柵を設置する等の対策を必要に応じて実施する。 ・掘削後の仮置き土砂は、必要に応じてシート等で覆い濁水発生の抑制に努める。

(3) 供用による影響（資材・製品・人等の運搬・輸送）

資材・製品・人等の運搬・輸送による自然との触れ合いの場の影響を予測した結果、利用状況への影響は小さいと予測された。

本事業の実施にあたっては、資材・製品・人等の運搬・輸送による自然との触れ合いの場への影響を可能な限り低減するため、表 8.11-29に示す措置を講ずることとする。

表 8.11-29 環境の保全及び創造のための措置（供用による影響（資材・製品・人等の運搬・輸送））

環境影響要因	環境の保全及び創造のための措置の内容
供用による影響 （資材・製品・人等の 運搬・輸送）	●マイカー利用の削減，公共交通機関利用促進 <ul style="list-style-type: none">・対象事業計画地内に泉パークタウンと泉中央駅を結ぶ地域循環型コミュニティバス（パークバス）の路線の延長を要請し，地域住民の交通の利便性向上とともにマイカー利用の削減を図る。・路線バス営業所の誘致を図り，対象事業計画地内の適切な場所にバス停留所を確保することで，公共交通機関の利用を促す。

8.11.4. 評価

(1) 工事による影響（資材等の運搬）

ア 回避・低減に係る評価

① 評価方法

予測結果を踏まえ、資材等の運搬による自然との触れ合いの場の影響が、適切な施工計画等の保全対策により実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

② 評価結果

環境保全措置として、工事の平準化等、作業員教育、交通誘導により自然との触れ合いの場の利用状況への影響の抑制が図られていることから、資材等の運搬による自然との触れ合いの場への影響は実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

(2) 工事による影響（重機の稼働、切土・盛土・掘削等）

ア 回避・低減に係る評価

① 評価方法

予測結果を踏まえ、重機の稼働、切土・盛土・掘削等による自然との触れ合いの場の影響が、適切な施工計画等の保全対策により実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

② 評価結果

環境保全措置として、工事の平準化等、作業員教育、作業の管理等、排出ガス対策型重機の採用、濁水防止により自然との触れ合いの場の利用状況への影響の抑制が図られていることから、重機の稼働、切土・盛土・掘削等による自然との触れ合いの場への影響は実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

(3) 供用による影響（資材・製品・人等の運搬・輸送）

ア 回避・低減に係る評価

① 評価方法

予測結果を踏まえ、資材・製品・人等の運搬・輸送による自然との触れ合いの場の影響が、保全対策等により実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

② 評価結果

環境保全措置として、マイカー利用の削減、公共交通機関利用促進により自然との触れ合いの場の利用状況への影響の抑制が図られていることから、資材・製品・人等の運搬・輸送による自然との触れ合いの場への影響は実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。